

神戸港と兵庫県内の強制連行

—神戸に徴用された鄭寿錫さんの証言から—



神戸港とポートタワー



こうべまちづくり会館

2020年2月16日 こうべまちづくり会館

兵庫在日外国人人権協会 代表 孫敏男

1

【実践/連帯/共闘】

【15】神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査する会 1999.11～2008.12



李南淳さん



鄭寿錫さん



2008年7月建立

2004年出版



2

民族差別と排外に抗して

—在日韓国・朝鮮人差別撤廃運動 1975-2015—



兵庫在日外国人人権協会

当団体が2015年に出版した40年間のボランティア活動記録集です。2000円で販売しています。

この記録集に「【実践/連帯/共闘】 【15】 神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査する会」として掲載されています。私が直接2度訪韓して調査しました。

3

厚生省名簿とは

1993.07.31 第4回朝鮮人・中国人強制連行を考える全国交流集会において、民団中央本部は韓国政府から提供された『厚生省名簿』を一般公開する。1990年5月に盧泰愚大統領が日本を訪問した際に「戦前・戦中の朝鮮人連行者の名簿作りについて協力要請した」ことが契機となる。

この『厚生省名簿』は1946年に厚生省が各勤労署単位で実施した「朝鮮人労働者に対する調査」結果である。16県分しかない。そのなかの「兵庫県分」が122事業所で13,424人となり最多である。この厚生省勤労局が調査した「朝鮮人労務者に関する調査」名簿は、朝鮮人連盟による戦後の未払金などの請求行動に対抗して調べられたものであり、朝鮮人労働者の名簿を保管していた企業が報告様式に従って戦後に名簿を作成した。

4

第一號表

第一號表	姓名	生年	身長	備考
1	金谷達夫	27	178	
2	金谷清	27	178	
3	金谷清	27	178	
4	金谷清	27	178	
5	金谷清	27	178	
6	金谷清	27	178	
7	金谷清	27	178	
8	金谷清	27	178	
9	金谷清	27	178	
10	金谷清	27	178	
11	金谷清	27	178	
12	金谷清	27	178	
13	金谷清	27	178	
14	金谷清	27	178	
15	金谷清	27	178	
16	金谷清	27	178	
17	金谷清	27	178	
18	金谷清	27	178	
19	金谷清	27	178	
20	金谷清	27	178	
21	金谷清	27	178	
22	金谷清	27	178	
23	金谷清	27	178	
24	金谷清	27	178	
25	金谷清	27	178	
26	金谷清	27	178	
27	金谷清	27	178	
28	金谷清	27	178	
29	金谷清	27	178	
30	金谷清	27	178	
31	金谷清	27	178	
32	金谷清	27	178	
33	金谷清	27	178	
34	金谷清	27	178	
35	金谷清	27	178	
36	金谷清	27	178	
37	金谷清	27	178	
38	金谷清	27	178	
39	金谷清	27	178	
40	金谷清	27	178	
41	金谷清	27	178	
42	金谷清	27	178	
43	金谷清	27	178	
44	金谷清	27	178	
45	金谷清	27	178	

5

第一號表	姓名	生年	身長	備考
1	岩村幸久	27	178	
2	木村成秀	27	178	
3	竹安周吉	27	178	
4	松田素錫	27	178	
5	上安興吉	27	178	
6	上佳里	27	178	
7	上安興吉	27	178	
8	上安興吉	27	178	
9	上安興吉	27	178	
10	上安興吉	27	178	
11	上安興吉	27	178	
12	上安興吉	27	178	
13	上安興吉	27	178	
14	上安興吉	27	178	
15	上安興吉	27	178	
16	上安興吉	27	178	
17	上安興吉	27	178	
18	上安興吉	27	178	
19	上安興吉	27	178	
20	上安興吉	27	178	
21	上安興吉	27	178	
22	上安興吉	27	178	
23	上安興吉	27	178	
24	上安興吉	27	178	
25	上安興吉	27	178	
26	上安興吉	27	178	
27	上安興吉	27	178	
28	上安興吉	27	178	
29	上安興吉	27	178	
30	上安興吉	27	178	
31	上安興吉	27	178	
32	上安興吉	27	178	
33	上安興吉	27	178	
34	上安興吉	27	178	
35	上安興吉	27	178	
36	上安興吉	27	178	
37	上安興吉	27	178	
38	上安興吉	27	178	
39	上安興吉	27	178	
40	上安興吉	27	178	
41	上安興吉	27	178	
42	上安興吉	27	178	
43	上安興吉	27	178	
44	上安興吉	27	178	
45	上安興吉	27	178	

第二號表 調査表

川崎重工業製鉄所
葺合工場

6

附記事項

一、終戦時 於朝鮮人労働者ノ数 四四三名

二、帰國セシメタルモノノ数 四二九名

三、終戦ニ依リ解雇シタル者ニ対スル處置状況

1. 終戦時ニ在リテ健康保険標準八級ノ六割ヲ基準トシテ支給シタル者 二五名

2. 終戦時ニ在リテ健康保険標準八級ノ六割ヲ基準トシテ支給シタル者 二五名

3. 空用解除者 平均一七〇月

4. 死亡者 二五名

5. 徴用ニ依ル朝鮮人労働者ノ数 六〇九名

備考

1. 職種ハ戦災ニ依リ書類焼失ノタメ不明ニ付省略ス

2. 退所月日及退所事由ハ書類一部焼失ノタメ不明ニ付省略ス

3. 未拂金及退所時待遇金額ハ全部未拂トシ実際支給シタル額ハ終戦時ノ處置状況ニ記載セリ

4. 厚生年金保険ハ本表全員目下申請中ナリ

5. 自由ハ終戦後本人自由ニ帰解シタルモノヲ表ス

6. 索引 共済金退金給付金

7. 戦災見 戦災見舞金

8. 戦災見 戦災見舞金

9. 本表短日作製未了核メ提由ニ止ムナリ為今後訂正ノ要見賜合テテ想ス

分		年月日	退所年月日	退所未	別金	金	退
八四四	一九六二	一時	新	民野	一〇五七	六六八	川
〃	一九七〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	一九四三	満期	〃	〃	九五〇二	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	二五〇五	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	三三七	〃	〃
川崎製鉄所総合工場		退所時待遇	厚生年金保険 給付済有無	摘	要	〃	〃
山安用者		退元	本人返済	〃	〃	〃	〃

兵庫県内の分野別徴用者順位

	分野別	企業数	徴用人数	割合
1	工場関係	68社	8,931	67%
2	鉱山関係	38社	3,157	24%
3	交通・土木・荷役関係	16社	1,336	10%
合計		122社	13,424	100%

朝鮮人労働者の日本への連行数

年度	計画数	石炭山	金属山	土建	工場その他	計	達成率
1939 年	85,000	34,659	5,787	12,674	—	53,120	62%
1940	97,300	38,176	9,081	9,249	2,892	59,398	61%
1941	100,000	39,819	9,416	10,965	6,898	67,098	67%
1942	130,000	77,993	7,632	18,929	15,167	119,721	92%
1943	155,000	68,317	13,763	31,615	14,601	128,296	83%
1944	290,000	82,859	21,442	24,376	157,795	286,472	99%
1945	50,000	797	229	836	8,760	10,622	21%
計	907,300	342,620	67,350	108,644	206,113	724,727	80%

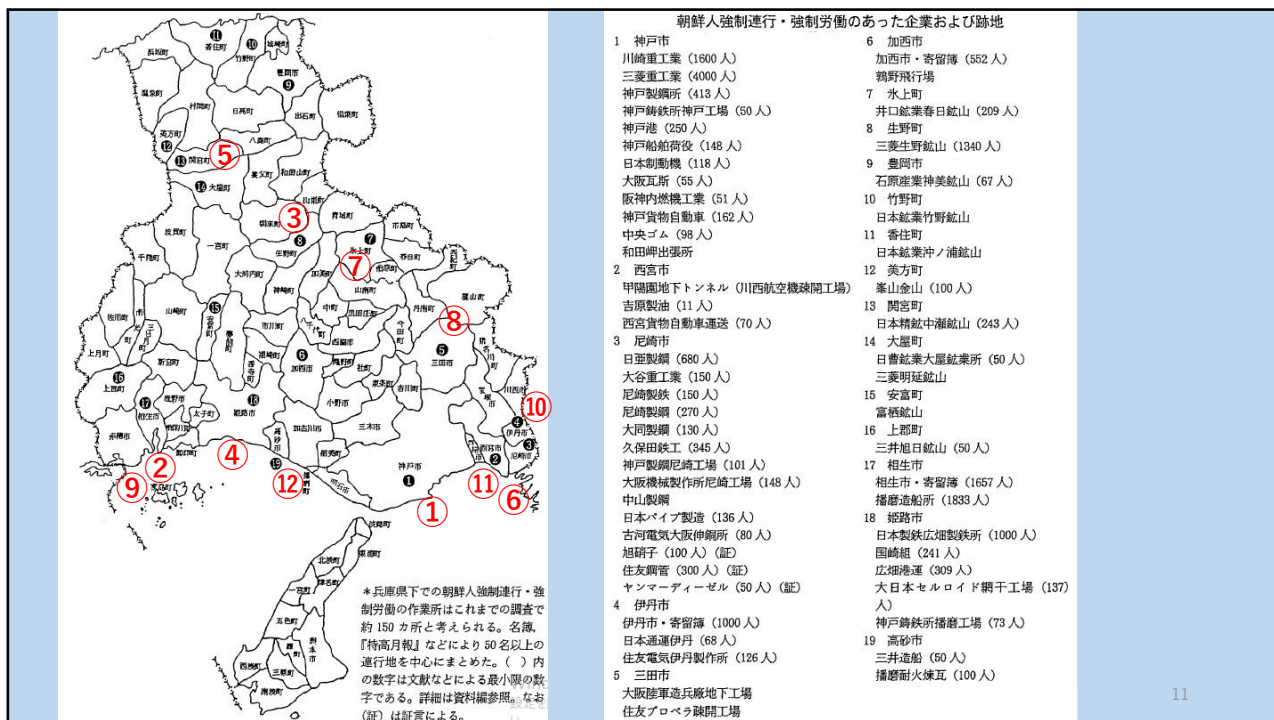
(備考) 1) 1944年計画数は年度途中途中で326,000人に変更された。
 2) 1945年計画は第1・4半期として設定されたもの。
 3) 大蔵省管理局「日本人の海外活動に関する歴史的調査」朝鮮編第9号分冊。63ページによる。
 (鈴木隆史「戦時下の植民地」「岩波講座日本歴史」21より)

9

兵庫県内の徴用は？

順位	都市別	徴用人数	企業名と企業数
①	神戸市	4,645	三菱重工業神戸造船所・川崎製鉄所葺合工場等14社
②	相生市	2,212	播磨造船所等2社
3	朝来郡生野町	1,340	三菱生野鉱業所鉱山1社
4	姫路市	1,328	工場等28社
5	養父郡	1,142	三菱鉱業鉱山1社
6	尼崎市	1,097	工場等14社
7	氷上郡	378	鉱山18社
8	多紀郡	138	鉱山13社
9	赤穂市	117	日本製鉄・三井鉱山
10	伊丹市	113	工場等7社
11	西宮市	98	工場等4社
12	高砂・明石等	816	
	合計	13,424	122社

10



11

神戸市の徴用工とは

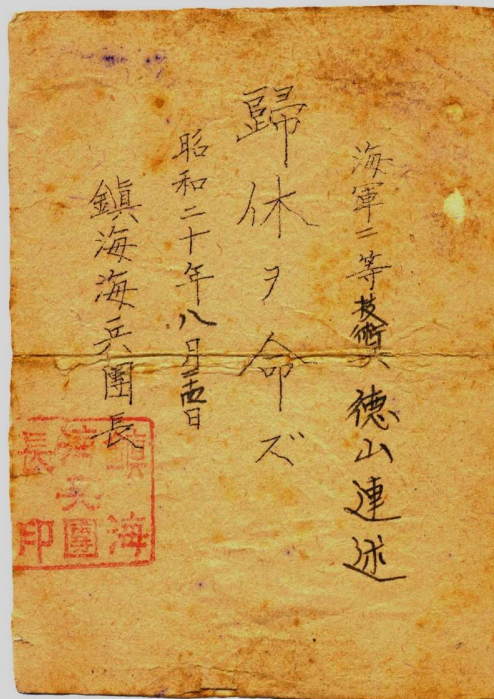
企業名	人数	区分
三菱重工業(株) 神戸造船所 (神戸市)	1,984	(工場関係)
川崎重工業製鉄所 葺合工場 (神戸市)	1,398	(工場関係)
(株)神戸製鋼所 本社工場 (神戸市)	413	(工場関係)
川崎重工業(株)製鉄所 兵庫工場 (神戸市)	221	(工場関係)
神戸貨物自動車(株) (神戸市)	162	(工場関係)
神戸船舶荷役(株) (神戸市)	148	(交通・土木・荷役関係)
日本制動機(株) (神戸市)	118	(工場関係)
大阪瓦斯(株) 神戸支社西工場 (神戸市)	55	(工場関係)
阪神内燃機工業(株) 神戸工場 (神戸市)	51	(工場関係)
川西航空機(株) 甲南製作所 (神戸市)	38	(工場関係)
鐘紡紡績(株) 神戸造機工場 (神戸市)	33	(工場関係)
東出鉄工所 (神戸市)	24	(工場関係)
(株)神戸製鉄所 (神戸市)	*	(工場関係)
川崎車両(株) (神戸市)	*	(工場関係)
合計	4,645	

12

徴用令書

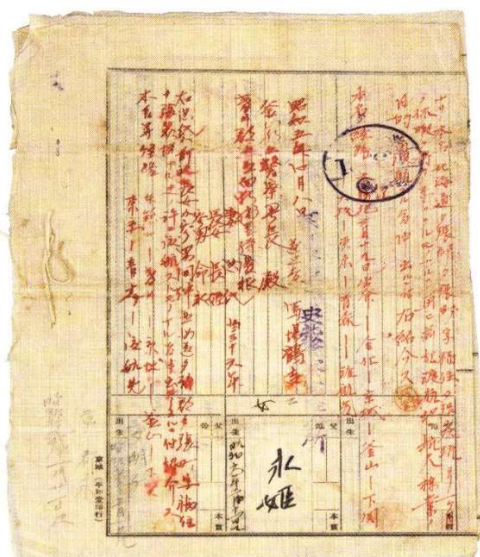


▲1944年4月5日に京畿道知事名で告知された徴用令書
1944년4월5일 경기도지사명의로 고지된 징용령서

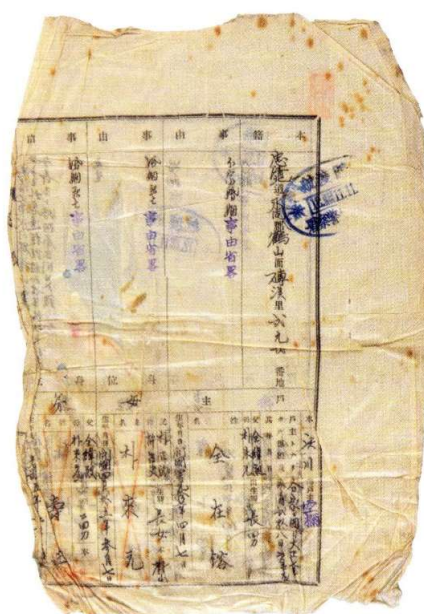


13

渡航証明書



▲江原道出身の孫慶根氏の渡航証明書。春川→金化→京城→釜山→
下関→北海道と記されている(1940年)
강원도출신의 손경근씨의 도항증명서. 춘천→금화→서울→부산
→시모노세키→홋카이도로고 기입되어있다



▲警察署発行の渡航証明書
경찰서발행의 도항증명서

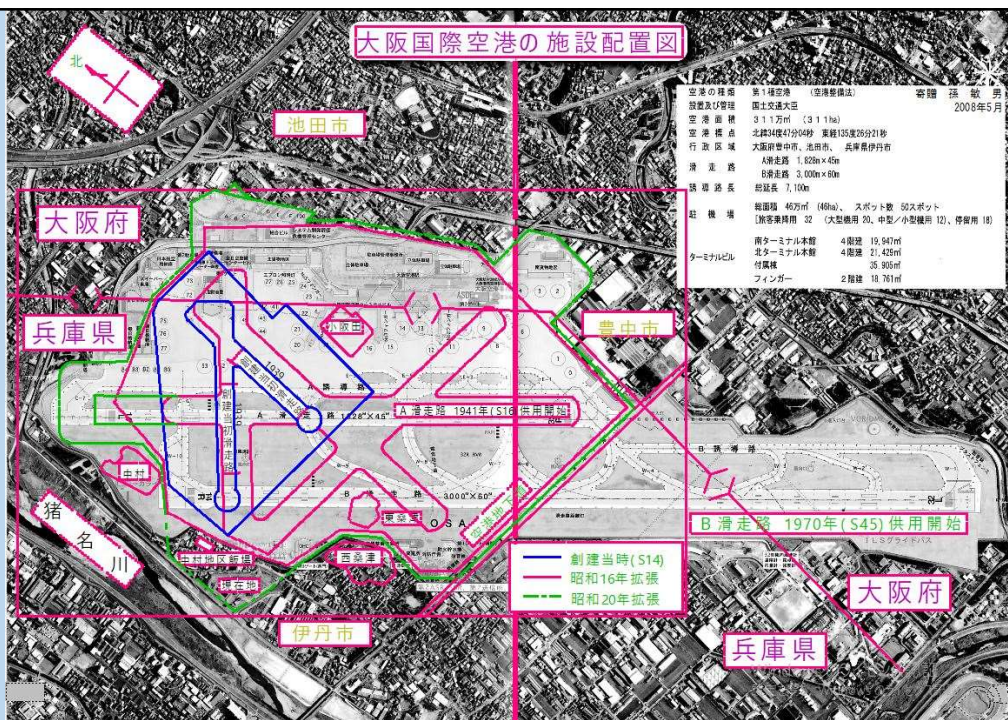
14

This image shows a historical Chinese manuscript, possibly a medical or astronomical text, written on aged, yellowed paper. The text is organized into vertical columns, with some characters written in red ink (likely indicating specific points of interest or corrections) and others in black ink. The script is a traditional Chinese calligraphic style. A small red seal is visible near the top right corner. The paper shows signs of wear, including creases and discoloration.

경상남도 거제군출신의 주부윤씨가 1929년 일본으로 올 때
발행된 도항증명서



▲사할린へ渡った同胞の渡航証明書
사할린에 건너간 동포의 도항증명서



二〇〇七年九月九日に兵庫在日外国人人人権協会がフィールドワークを実施したときに孫敏男が作成して寄贈した地図



17

朝鮮人労働者の日本への連行数

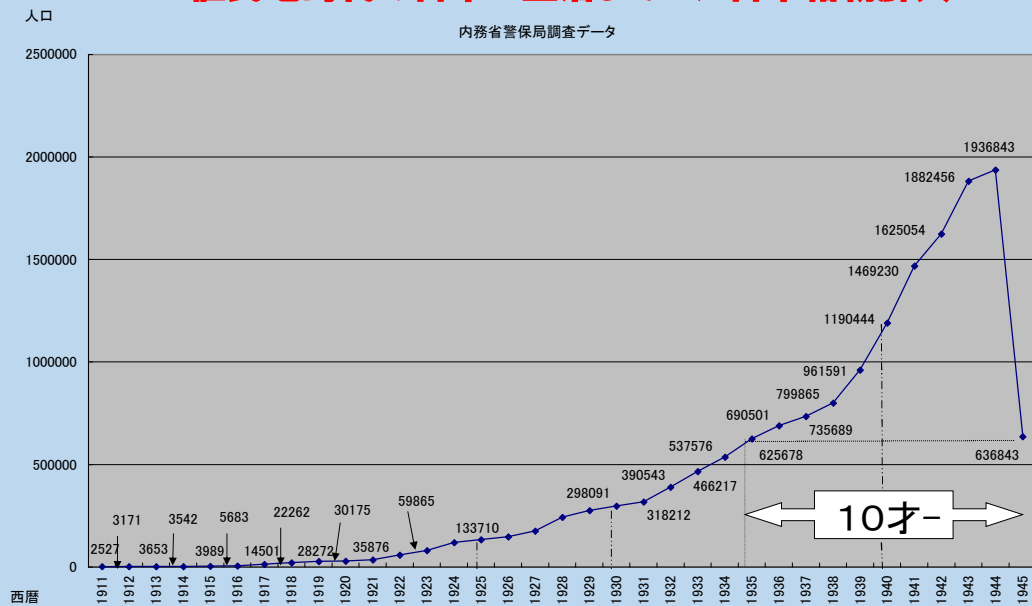
年度	連行者数	出 所
1939	53,120 人	第86議会説明資料
1940	81,119	} 高等外事月報
1941	126,092	
1942	248,521	
1943	300,654	
1944	379,747	} 日帝の経済侵略史 朝鮮経済統計要覧
1945	329,889	
計	1,519,142 人	

琴秉洞「日本帝国主義の朝鮮同胞強制連行と虐待の実態」上

『月刊朝鮮資料』1974年8月号より

18

植民地時代の日本に生活していた日本籍朝鮮人



19

朝鮮・日本・台湾の人口推移

年	朝鮮人 人口 (万人)	男女比率 (女100 に対する)	平均増加 率(過去 5年の平 均, %)	推計・国 勢調査の 人口数 (万人)	左の指数 1910年 =100	日本の 総人口 (万人)	左の指数 1910年 =100	台湾の 総人口 (万人)	左の指数 1905年 =100
1905								304	100
1906	978	117							
1910	1,313	113	8.6	1,631	100	4,818	100		
1915	1,596	105	4.3	1,703	104	5,275	109	348	114
1920	1,692	106	1.2	1,763	108	5,596	116	366	120
1925	1,854	104	1.9	1,902	117	5,974	124	399	131
1930	1,969	103	1.2	2,044	125	6,445	134	450	148
1935	2,125	103	1.6	2,221	136	6,925	144	512	168
1940	2,295	102	1.6	2,355	144	7,193	149	572	188

出典：日本の植民地支配 肯定・賛美論を検証する 水野直樹・藤永壮・駒込武編 岩波書店2004

出所：1906年(『第3次総監府統計年報』)を除き『朝鮮総督府統計年報』による(警察の調査による人口数)

「推計」(1910-20年)は金哲氏の研究による。日本の人口は内閣統計局の推計および国勢調査による。

台湾の人口は国勢調査(戸口調査)による。1905-25年には「山岳地帯」の人口は含まれていない。

21)

地域別・身分別(軍人軍属と邦人)引揚者数 (1996.1.1現在)

区 分	総 数		軍人・軍属		邦 人	
総 数	6,295,496		3,107,411		3,188,085	
ソ 連 連 邦	472,945	766,441	453,787	469,793	19,158	296,648
千 島 群 島	293,496		16,006		277,490	
満 洲 州	1,045,525		41,916		1,003,609	
大 連 市	225,954	2,831,009	10,917	1,111,578	215,037	1,719,431
中 国 領	1,540,183		1,044,460		495,723	
香 港	19,347		14,285		5,062	
北 朝 鮮 国	322,585	919,904	25,391	206,600	297,194	713,304
韓 国	597,319		181,209		416,110	
台 湾	479,544		157,388		322,156	
本 土 隣 接 諸 島	62,389		60,007		2,382	
沖 縄 県	69,416		57,364		12,052	
蘭 領 東 印 度	15,593		14,129		1,464	
仏 領 インドシナ	32,303		28,710		3,593	
太 平 洋 諸 島	130,968		103,462		27,506	
比 島	133,123		108,912		24,211	
東 南 ア ジ ア	711,507		655,330		56,177	
ハ ワ イ	3,659		3,349		310	
オーストラリア	138,843		130,398		8,445	
ニュージーランド	797		391		406	
百 分 率	100%		49%		51%	

- 1 この間の引揚者は、上陸地において引揚手続を行った者のみ計上し、引揚手続を経ないで帰還した者は含まれていない。
- 2 地域区分は、出陸地の所在する地域で分類しており、日中国交正常化後の中国東北部(旧満州)残留邦人の引揚げについては「中国」に分類して掲載している。
- 3 1945年日本人口 約7,000万人 1940年 朝鮮半島人口 2,355万人

この表で理解してほしいのは、日本の植民地となっていた朝鮮半島に日本人(邦人)が713,304人暮らしていて、日本に来ていた朝鮮人が空家として利用できた住居が713,304人分しか無かったということです。

戦後約60万人が残留することになった理由として、約180万人は帰国してなんとか住居があったのですが、幼児・子どもがいる家庭は早く帰った親兄弟に住居の手立てを頼んだのですが、終戦から5年後の1950年に「朝鮮戦争」があり戦乱で帰国できないまま戦争特需に沸く日本で3K産業を自営し、活路を見出し、帰国しようと一世は頑張ったのですが果たせなかったのが「在日コリアン」なのです。

21

神戸市の徴用工の聞取りから



22

④強制連行

神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査する会

孫敏男が2回訪韓して現地で聞き取り調査を行った。本出版。記念碑建立。

鄭壽錫(チョン・スソク)さんは、川崎製鉄所葺合工場に2年間労働して帰国した。軍隊に徴用される前に来た。李南淳(イ・ナムスン)さんは神戸船舶荷役(沖中士)で障害を負い帰国。

1941年12月8日、米英に宣戦布告し太平洋戦争開始から官斡旋(国家)による強制連行が始まる。207万人の朝鮮人が強制連行(徴用)された。

第二次世界大戦

	企業責任による強制連行			行政責任による強制連行		
	昭和14年 1939	昭和15年 1940	昭和16年 1941	昭和17年 1942	昭和18年 1943	昭和19年 1944
自由募集による動員	●			→◎		
官斡旋による動員				●		→◎
国民徴用令による動員						◎
入所日						
姓 名						
事業所名						

1943.4.4 鄭壽錫
川崎葺合工場

1944.9.14 李南淳
神戸船舶荷役

23

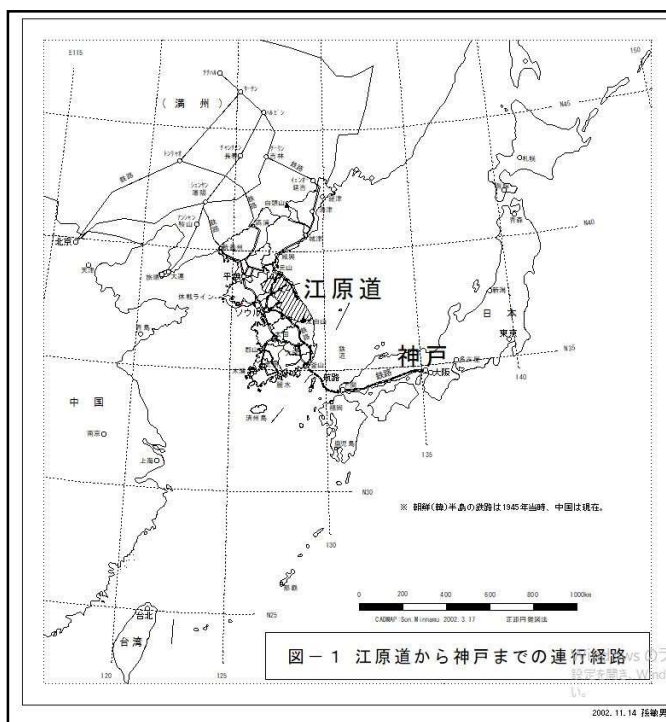
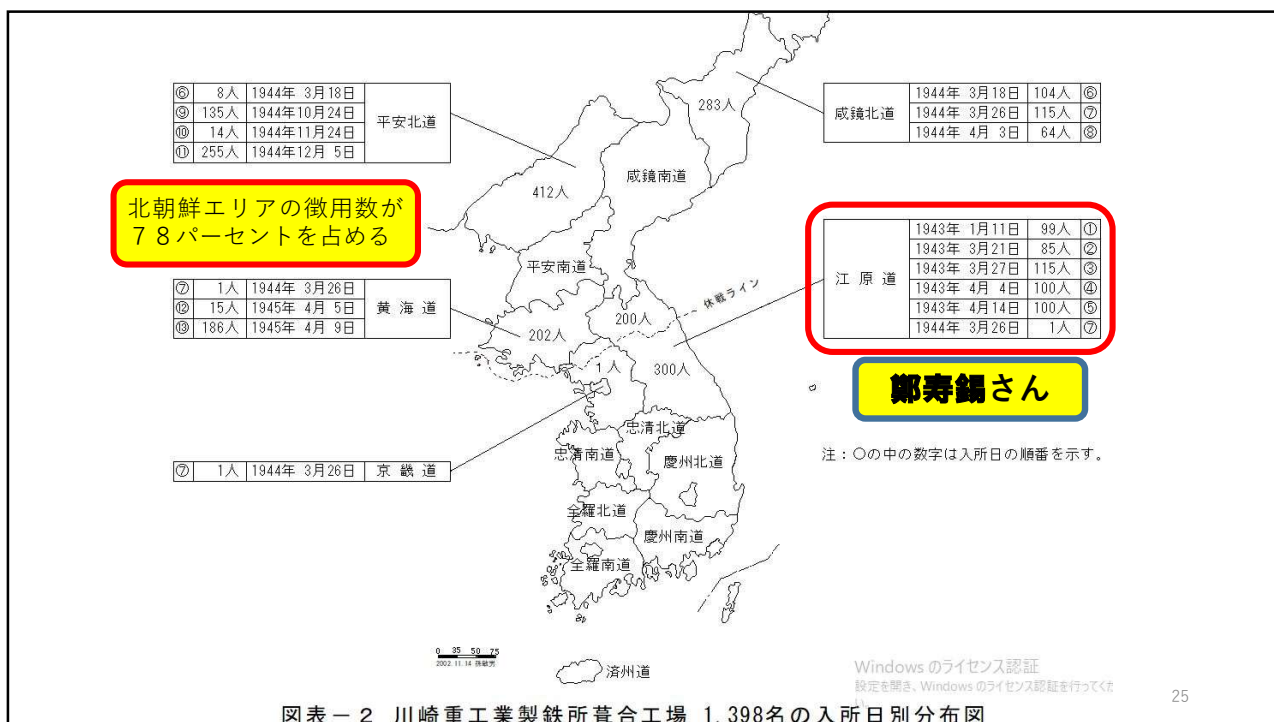
郡別募集人員一覧(江原道)

川崎重工業製鉄所 葺合工場

入 所 年 月 日	地図凡例	郡 別 入 所 人 数										合 計
1943年1月11日		原州郡 40人	横城郡 30人	洪川郡 29人								99
1943年3月21日						鐵原郡 35人	金化郡 50人					85
1943年3月27日						鐵原郡 15人			通川郡 50人	高城郡 50人		116
1944年3月26日								襄陽郡 1人				
1943年4月4日			横城郡 30人	洪川郡 30人	春川郡 40人							100
1943年4月14日		原州郡 40人									平昌郡 30人 麟蹄郡 30人	100
郡 別 小 計		80	60	59	40	50	50	1	50	50	30 30	500

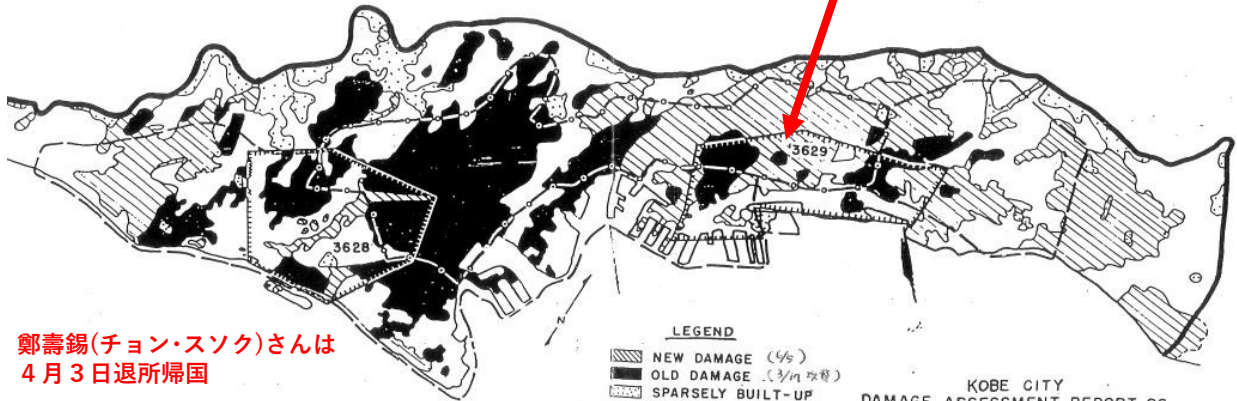
2002.11.14 孫敏男

24



米陸軍航空軍第21爆撃機集団「戦術任務報告」任務番号188
 (1945年6月5日神戸)より 神戸市街地被害評価図
 New Damage 6月5日の空襲による焼失区域 Old Damage 3月17日の空襲による焼失区域
 Incendiary Zone 1 第1焼夷弾攻撃区域 Incendiary Zone 2 第2焼夷弾攻撃区域

川崎製鉄所 葺合工場



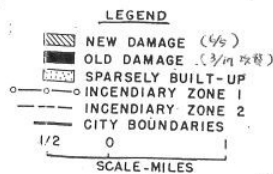
鄭壽錫(チョン・スソク)さんは
 4月3日退所帰国

1945年

3月17日 神戸市街地への焼夷弾(ナバーム
 弾・48発)による夜間大空襲

死者2,700余人、全焼・全壊家屋6.8万余戸

6月5日 神戸市街地への焼夷弾による昼間大
 空襲 死者3,453人



KOBE CITY
 DAMAGE ASSESSMENT REPORT 96
 XXI B.C. MISSION 188
 5 JUNE 45
 C.I.U. XXI BOM. COM.

CONFIDENTIAL

ENCL. 2

川重
 (3629) 神戸市街地への空襲

27

1945年神戸空襲



3月17日
 の空襲



6月5日
 の空襲



2月4日
 5月11日
 など

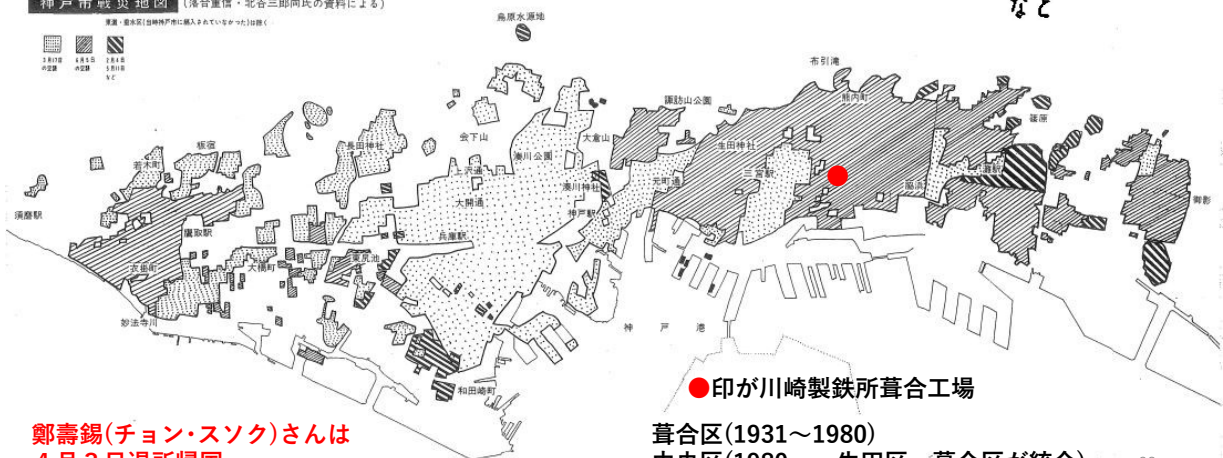
神戸市戦災地図 (落合重信・北谷三郎両氏の資料による)

注意: 空白区(当時神戸市域に属していなかった)は除く

2月4日
 の空襲

6月5日
 の空襲

2月4日
 の空襲



鄭壽錫(チョン・スソク)さんは
 4月3日退所帰国

●印が川崎製鉄所葺合工場

葺合区(1931~1980)

中央区(1980~ 生田区・葺合区が統合)

28



29



30

鄭寿錫さんからの聞き取り内容

2001年10月15日 京畿道安養市の鄭寿錫さん自宅にて

- ①生年月日 戸籍上 1924年2月20日 本当 旧暦1923年5月19日
- ②現在の戸籍住所 江原道横城郡安興面上安興里450番地 渡日前住所 江原道横城郡安興面上安興里183番地
(理由) 日本から帰国してアンサン里内で家を買って移り住んだ。
- ③入所時年齢 渡日時は20歳 ④出発日 1943年4月1日 横城郡庁を出発
入所日 1943年4月4日。入所初日から3ヶ月間軍事訓練。入所初日から3ヶ月間、芦屋市打出町で軍事訓練があった。入所4ヶ月目から葺合工場で製鉄所勤務が始まる。
- 退所日 1945年4月3日。実質1年9ヶ月勤務。2年間の契約期間が満了したため退所した。
- ⑤川崎重工業製鉄所へ行った理由は 募集があり志願して行きました。
- ⑥当時の募集の様子は 募集は、面事務所ではなく郡庁で行われた。日本語の聞き取り試験がありました。ほとんど理解できず少し聞き取れた程度で合格した。合格したらその場で服と腕章を支給されたのですぐに着替えさせられた。腕章には「挺身隊」と書かれていた。家に戻らず、着替えたその場から日本へすぐに出発した。
- ⑦日本へ行く決心をしたのはなぜか 18歳、19歳の時から徴用に行かされることを聞いていたため。「近所の人に先に行った人が居て、いついつ募集するから来なさい」と言われて行った。「自分たちが4番目になる」と証言された。「鉄原郡でも2回行ったようです」と証言された。

31

鄭寿錫さんからの聞き取り内容

					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
					春川郡	洪川郡	横城郡	原州郡	平昌郡	麟蹄郡	鉄原郡	金化郡	襄陽郡	高城郡	通川郡	合計
募集人員100人	1番目	1回目	1943/1/11	99		29	30	40								99
募集人員100人	2番目	2回目	1943/3/21	85							35	50				85
募集人員100人	3番目	3回目	1943/3/27	115							15			50	50	115
募集人員100人	4番目	4回目	1943/4/4	100	40	30	30									100
募集人員100人	5番目	5回目	1943/4/14	100				40	30	30						100
募集人員100人	6番目	6回目	1944/3/26	1									1			1
					40	59	60	80	30	30	50	50	1	50	50	500

江原道で500人募集計画を立案していた。
一回に100人募集計画を立案していた。
一回で3郡にまたがり郡庁で募集していた。
3郡に分かれていて毎回合計100人募集できたのは綿密な郡との事前連絡がとれていたと推測される。
鉄路のある郡は50人枠、鉄路から離れた徒歩圏の郡は30人枠としていたことが理解できる。
洪川郡、横城郡、原州郡の3ヶ月後の連続2回募集以外の8郡は各郡一回限定の募集である。

32

鄭寿錫さんからの聞き取り内容

⑧	1943年4月4日の同期入所者数は			
	4番目と人数は鄭寿錫さんの記憶と同じ。			
	1回目	2回目	3回目	合計
	洪川郡	横城郡	春川郡	
	(30)29人	30人	40人	(100)99人
	60人			
	兵庫県芦屋市打出町に訓練所があった。			
	阪神電車に乗って行った。			
	寄宿舍もあった。			

33

鄭寿錫さんからの聞き取り内容

⑨	募集経路			
	募集があつて郡庁に行き、その場で身体検査をした。			
	身体検査に合格したので、その場で服を支給された。			
	その時支給された腕章が「挺身隊」と書かれていた。			
	そのまま郡庁から原州へ行き汽車に乗った。			
	汽車で原州から釜山に行き船に乗った。			
	連絡船で釜山から下関へ行った。			
	汽車で下関から芦屋についた。			

34

鄭寿錫さんからの聞き取り内容

⑩**宿舎兼訓練所** 芦屋市打出町。食堂あり。木造2階建のアパート。
500～600人収容。

⑪**3ヶ月間の軍事訓練とは** 寮から近い海辺で軍事訓練を受けた。

⑫**軍事訓練中の一日の行動は**

軍隊と同じ生活をした。起床6時。朝6時に起きて、ゲートルを巻いて寮の食事をし、海辺で軍事訓練をした。海辺で暗くなる前までに引きあげて寮で食事をとった。食事後、軍人みたいに点呼して、7帖程度の畳の部屋に4人で寝た。この生活を3ヶ月間した。

35

鄭寿錫さんからの聞き取り内容

⑭**葺合工場（製鉄所）勤務の一日の行動は**

阪神電鉄に乗って三宮の手前の工場の前で降りました。駅から工場までは近かった。3交替で働いた。朝6時30分に工場に着かないといけなかった。朝勤務 6:00～13:30 昼勤務 13:30～21:30 夜勤務 21:30～6:30 阪神電車は一般車両であつた。引率者は居なかった。打出寮に事務所があって食券を配る日本人がいた。

食券をわたすと川崎重工のマーク入りのアルミ製弁当箱に入れた弁当がもらえた。日本人の引率の人はいたけど監視の人はいなかった。逃げようと思えば逃げられた。6ヶ月の定期券で通勤した。月給をもらう時に定期券をもらった。弁当は現場まで運んでくれた。ご飯とたくあんだけだが、良いときは魚がでた。朝・夕は打出寮、昼は工場で弁当。夜勤は12時になると弁当がでた。米がないときはサイマイモだけのときもあった。工場では、日本人と同じものを食べていた。日本人のなかには食事がまずいと言って、田舎から送ってきた米を食べている人がいた。昭和19年の秋に、2交替制になり打出寮から歩いて行ける工場に異動した。

36

○川重への印象は

私自身が山奥で育って昔から仕事はよくしていたので、川重での仕事は苦しいと思わなかったもので、もともと人の言われた通りにやったので、日本人からたたかれたりとか、そういう、怒鳴られたりとかいう記憶はない。韓国でも苦しい、貧しい家にいたので、川重での体験とそんなに差がないと考えている。

37

○日本での記憶は「お腹が空いたという記憶しかない」と言っていますが、思い出に残っていることは

韓国の生活がひどかったので韓国より川重の方が良かった。お金さえ持っていけば何でも買えた。昭和19年からは、そういうことがなくなってしまった。天王寺動物園に行った記憶もある。日本人は個々人は良いひとたちだ。歴史を歪曲するから悪いと思う。私は愛国者ではないですが、考えてみれば、私に対しては、そういうことは無かったけれど歴史的に見れば韓国人を無慈悲に扱ったひとではないかと。私が考えるには、私は運が良かったと。2年契約なので、2年で帰してくれた。しかし、炭坑へ行ったひとたちは一人も帰ってこなかった。炭坑にも募集があって当時行っていた。炭坑に行ったひとは2年契約でも、2年後帰ってこなかった。そういう話を聞きました。行った工場が良かったと私はそう考えています。

38

●帰国について

郡までの帰国費用は川重が負担した。時間が無くて貯金も引き出せなかった。帰ってきたあとに貯金を送ってくれました。だから、ありがたい。

●当時、川重雪を断ろうと思えば断れたのでしょうか

昭和18年に募集に応じたのは、昭和19年には徴用で引っ張られていくのがわかっていたので、お金を儲けるのではなく、それよりもむしろ、その前に行って少し慣れておくというつもりで行きました。昭和19年は、軍への徴兵第一期生になるため、どうせ自分は軍に行かないといけなないので、そのために軍に行くのならば先に日本に行って慣れておこうと考えて行った。

39

●日本に行く前に働いていたのか 1週間に2～3回、朝9時から夕方6時までの軍隊訓練に出てこいと、日本に働きに行く前にも言われて参加していた。農作業ができないので、田舎で貧しいのに、それだったら日本に行ってしまうと思った。

●家族 父は顔も知らない。母は生きていた。9歳上の兄一人だけの二人兄弟。娘二人は結婚した。歳をとって息子が一人生まれたが結婚がまだで今一緒に暮らしている。

●日本行きへの家族の反対はなかったのか 知ると反対されると思ったので、合格してすぐ、そのまま、その日に日本へ行き、日本に着いてから手紙を書いた。手紙は自由に書けた。

40

●兄と若者の徴用逃れはなかったのか

徴用は来ていたが長男であり、母の面倒も見ないと行けないので逃げていた。逃げると代わりに下男を連れていったらしい。自分は兄の代わりに行ったのではない。自分は必ず徴兵されるので行った。若い人は4月になるとみんな連れて行かれて若い人はいなかった。

●郡庁内での募集会場の様子は

30人を選ぶのに100人来ていた。「さかもと」という日本人が選考した。「はた」という川重のひとが来て、「いさか」と言ったか。4月1日に選んで、4月1日その場で、そのままで日本へ出発した。作業服、腕章、リュックサックを貰い、リュックに入れていく物は入れろと言われたが、自分を入れる物がなかった。

41

●横城郡からは40年前離れた。

●自分18歳、妻16歳で日本に行く前に結婚していた。妻は兄家族と一緒に暮らしていた。「日本に行くと言ってそのまま行ってしまった」とは妻の一言。

●朱英哲いう人はいますか？ 一緒に行き、帰るのも一緒だった。徴兵検査を受けたが徴兵されなかった。

金東雲(キム・ドンウン)は自分より年下だから(いまも)生きているのではないか。

●木村さんは逃げた人です。70年度に、この木村さんから手紙がきました。その当時、日本語が聞けて理解できたので行けた。

42

- 服装は、何も持たず日本に行ったので支給された作業服を着ていた。**
- 日曜日は休みで、食べに出かけた記憶がある。**
大阪の四天王寺まで行ったこともある。
- 一時帰国はしましたか** 2年間一度も帰郷していない。
- 退所時の一時金、贈り物** 無かった。帰るときにいくつかのおにぎりをくれたくらいです。

43

●**帰国行程** 4月23日の夕方に列車に乗り、下関へ向かった。下関で8日間、船がなく待った。連絡船がなく商業船に乗った。対馬に行き1日泊まり翌日麗水(ㄣ)方面に行き着いた。夕食後、麗水(ㄣ)から貨物船に乗って夜通し船に乗りソウルに朝6時に着いた。ソウルから原州行きの汽車に乗った。横城郡の近くの旅館でマッコリをごちそうしてくれた。その時、また日本に行くひと募集したが誰も行かなかった。郡からは、そのまま歩いて帰った。70里歩いて帰った。

44

●**帰国行程** 4月23日の夕方に列車に乗り、下関へ向かった。下関で8日間、船がなく待った。連絡船がなく商業船に乗った。対馬に行き1日泊まり翌日麗水(ヨス)方面に行き着いた。夕食後、麗水(ヨス)から貨物船に乗って夜通し船に乗りソウルに朝6時に着いた。ソウルから原州行きの汽車に乗った。横城郡の近くの旅館でマッコリをごちそうしてくれた。その時、また日本に行くひと募集したが誰も行かなかった。郡からは、そのまま歩いて帰った。70里歩いて帰った。

45

●**まとめ**

徴用しやすい時期（農閑困窮期）に、事前に軍隊訓練を押しつけて日本に働きに行かせる環境作りを軍隊と一丸となっていて行っていた。民間企業の募集という形に飲み込まれていたと考えられる。

軍が企業の後押しをしていたため、人集めが簡単に出来たという背景は**特筆**できるのではないか。

46

表－２ 面邑(村)で1回に徴用した人数

川崎重工業製鉄所葦合工場 朝鮮人徴用工

順位	1位	2位	3位	4位	5位	5位	6位	7位	8位	9位	9位	10位	11位	12位	12位	12位	13位	13位	13位	13位	13位	合計
徴用人数	1	3	2	4	5	7	6	9	8	10	12	14	13	11	18	19	15	17	20	26	28	—
回数	79	44	39	30	23	23	21	12	9	5	5	4	3	2	2	2	1	1	1	1	1	308
延べ人数	79	132	78	120	115	161	126	108	72	50	60	56	39	22	36	38	15	17	20	26	28	1,398
割合(%)	25.6	14.3	12.7	9.7	7.5	7.5	6.8	3.9	2.9	1.6	1.6	1.3	1.0	0.6	0.6	0.6	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	100%

注：46の面邑(村)で2回徴用しているため308回になる。

2002.11.14 孫敏男

表－３ 面邑(村)で1回に最も多く徴用した人数

川崎重工業製鉄所葦合工場 朝鮮人徴用工

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位	13位	14位	15位	16位	17位	18位	19位	20位	21位	合計
人数/回	7	3	6	4	5	9	1	2	8	12	14	10	13	19	18	28	26	11	20	17	15	—
回数	23	44	21	30	23	12	79	39	9	5	4	5	3	2	2	1	1	2	1	1	1	308
延べ人数	161	132	126	120	115	108	79	78	72	60	56	50	39	38	36	28	26	22	20	17	15	1,398
割合(%)	11.5	9.4	9.0	8.6	8.2	7.7	5.7	5.6	5.2	4.3	4.0	3.6	2.8	2.7	2.6	2.0	1.9	1.6	1.4	1.2	1.1	100%

注：46の面邑(村)で2回徴用しているため308回になる。

2002.11.14 孫敏男

47

厚生省名簿 第1号表 川崎重工業製鉄所葦合工場

年齢	人数	構成比	退 所 事 由										計
不明	56	4.0%											0
空白	18	1.3%										入営1	1
17	4	0.3%											0
18	10	0.7%											0
19	54	3.9%	病死1		死亡1	公傷死2		戦災死2				入営1	7
20	87	6.2%									病氣送還4	入営2	6
21	187	13.4%	病死1								病氣送還2	入営2	5
22	130	9.3%	病死1					戦死1			病氣送還2	入営4	8
23	82	5.9%				公傷死1						入営9	10
24	145	10.4%	病死1					戦死1	戦災死1				3
25	278	19.9%	病死2	戦死1		公傷死1		戦災死3	病氣送還5				12
26	199	14.2%				公傷死1		戦災死1	病氣送還1				3
27	51	3.6%	病死1						病氣送還1				2
28	26	1.9%							病氣送還2				2
29	7	0.5%							病氣送還1				1
30	17	1.2%	病死1										1
31	17	1.2%											0
32	8	0.6%							病氣送還1				1
33	4	0.3%											0
34	5	0.4%											0
35	2	0.1%											0
36	5	0.4%											0
37	1	0.1%											0
38	1	0.1%											0
40	1	0.1%											0
42	1	0.1%	病死1						病氣送還1				2
48	1	0.1%							病氣送還1				1
計	1,397	99.9%	9	1	1	5	2	7	21	19	65		

2002.11.14 孫敏男

48

表－ 7 朝鮮人徴用工 未払金（全体） 川崎重工業製鉄所 葺合工場

全体人数 1,398人	金額明記			金額明記			金額明記			金額・区分不明			金額不明		
	共済会	人数	月数	国民貯蓄	人数	月数	残勘定	人数	月数	金額	人数	月数	人数	月数	推定金額
項目別全体合計	39,042.37	465	8,601	13,925.23	206	2,945	1,068.66	104	783	1,381.90	31	208	592	5,021	-
未払金総計	55,418.16												-		
全体構成比 パーセント	33%			15%			7%			2%			42%		
一人当たり未払金	83.96	465	18.50	67.60	206	14.30	10.30	104	7.54	44.85	31	6.72	592	8.43	22,190.31
推定未払金合計	77,608.16														
推定一人当たり未払金額	55.51 円		総額	¥77,603		「厚生省名簿 第1号表」により作成 2002.11.14 孫敏男 注：2種類記載がある未払金は額の多い方を集計した。									
金額不明者の未払金の推定式				(未払金総計/就労月数総計×金額不明者の平均就労月数)×金額不明者総数											
一人当たり未払金の計算式				未払金合計/就労月数合計×一人当たりの就労月数											

表－ 9 死亡者25名一覧表 川崎重工業製鉄所 葺合工場

死亡順	氏名	年齢	本籍1	本籍2	入所年S	退所年S	退所事由	未払金種別	未払金円
1	金本敬泰	23	江原・横城郡	公根面水白里273	18.4.4	19.2.7	公傷死		
2	金本泰憲	19	威北・明川郡	上加面石峨洞208	19.3.26	19.8.22	病死		
3	金海宣山	25	平北・慶源郡	慶源面中榮洞252	19.3.18	19.8.30	韓死		
4	靈山榮鎮	25	江原・原州郡	貴来面竜岩里157	18.1.11	19.9.14	病死		
5	岡山道善	24	平北・定州郡	馬山面新五洞	19.12.5	20.1.22	病死		
6	康基琬	42	平北・雲山郡	北鎮邑橋洞	19.10.24	20.2.1	病死	残勘定	10.51
7	林得洋	30	平北・博川郡	西嘉面峯美洞	19.10.24	20.2.10	病死		
8	金山日潤	26	平北・博川郡	西嘉面徳仁洞	19.10.24	20.2.11	公傷死		
9	陵城浅学	19	平北・雲山郡	東新面利洞	19.10.24	20.2.20	公傷死		
10	安田鶴春	19	威北・吉州郡	吉州邑榮基洞	19.3.26	20.3.3	公傷死	国民貯蓄他	92.89
11	星山化俊	21	平北・博川郡	博川邑北部洞	19.11.24	20.3.11	病死		
12	利川松鶴	19	威北・吉州郡	賜社面新豊洞	19.4.3	20.3.26	戦災死		
13	金谷海竜	25	平北・定州郡	葛山面■島洞	19.12.5	20.3.31	公傷死		
14	松谷熙昊	22	江原・横城郡	晴日面柳洞里863	18.4.4	20.4.15	病死		
15	松林明浩	25	平北・博川郡	■山面竜灘洞	19.12.5	20.4.19	病死	残勘定	10.78
16	山本仲根	19	威北・鶴城郡	鶴中面春洞	19.4.3	20.5.30	死亡		
17	田中基碩	25	平北・定州郡	観舟面■機洞	19.12.5	20.6.5	戦災死		
18	岸村道斌	25	平北・定州郡	観舟面■機洞	19.12.5	20.6.5	戦災死	戦災保険	1200
19	杏泉吉昇	24	平北・定州郡	徳彦面大山洞	19.12.5	20.6.5	戦災死	戦災保険	500
20	吉松翰箕	22	威北・茂山郡	西下面三川洞72,2	19.3.18	20.6.6	戦災死	国民貯蓄	4.13
21	長岡景竜	26	平北・竜川郡	外下面倣義洞	19.12.5	20.6.25	戦災死	残勘定	12.04
22	延金宣済	25	平北・定州郡	葛山面瑞南洞	19.12.5	20.6.25	戦災死	戦災保険	1200
23	金田竹山	19	威北・鏡城郡	朱乙邑仲郷洞266	19.3.26	20.8.6	戦災死		
24	辺海龍	24	江原・洪川郡	乃村面道竟里	18.1.11	記載なし	戦災死	国民貯蓄	17.54
25	林聖俊	27	江原・洪川郡	南面陽徳院里	18.4.4	記載なし	病死		

2002.10.15 孫敏男

注1：■は判読不明箇所

注2：死亡順は退所年を死亡日とした

鄭壽錫さんの故郷 江原道横城郡安興面上安興里 450番地を訪ねて



2003年9月22日朝 原州駅

51



52



53



54



55



56



57



58



59



60



61



62



63



64



65



66



67



68



69



70



71



72



73



미쓰비시가 있는 곳에 전쟁이 있었다

'지옥섬 군함도' 소유주였던 미쓰비시는 조선소에서 군함, 어뢰 등을 제작해
침략전쟁으로 성장한 대표적인 재벌이다. 나가사키 조선소에만 조선인이 6,000여명
강제동원되어 노예노동을 강요당했다. 미쓰비시는 **미국과 중국에는 직접 사과**하고
배상금 660억원까지 내놓았지만 **한국은 대법원 판결도 무시**하고 있다.

N● 미쓰비시

74

係争中の徴用工裁判の企業名 73社で960人

	被告	原告
上告審（2件）	1 三菱重工業	23
	2 三菱重工業	5
二審（9件）	1 不二越	27
	2 新日鉄住金	10
	3 三菱重工業	63
	4 三菱重工業	4
	5 不二越	5
	6 三菱重工業	2
	7 不二越	1
	8 新日鉄住金	3
	9 日立造船	1
一審（3件）	1 三菱重工業	63
	計	207

三菱重工業だけで160人で約8割を占め

1 横浜ゴム	19 佐藤工業	37 石原産業	55 松本組
2 函館どつく	20 住友金属鉱山	38 三菱重工業	56 麻生セメント
3 品川リフラクトリーズ	21 デンカ	39 西松建設	57 鹿島
4 太平洋興発	22 日鉄鉱業	40 常磐興産	58 東邦亜鉛
5 清水建設	23 日油	41 三宅組	59 大成建設
6 住友化学	24 日産化学	42 三井E&S造船	60 菅原建設
7 住石ホールディングス	25 日産自動車	43 三井松島産業	61 古河機械金属
8 熊谷組	26 日本通運	44 三井金属	62 角一化成
9 野上	27 日本曹達	45 森永製菓	63 りんかい日産建設
10 大林組	28 日本冶金工業	46 三菱倉庫	64 ラサ工業
11 広野組	29 日立造船	47 三菱電機	65 パナソニック
12 安藤ハザマ	30 宇部興産	48 三菱マテリアル	66 三菱ケミカル
13 フジタ	31 王子製紙	49 日本郵船	67 DOWAホールディングス
14 ニッチツ	32 岩田地崎建設	50 三光汽船	68 ダイセル
15 ダイゾー	33 新日鉄住金	51 山陽特殊製鋼	69 東芝
16 JXTGエネルギー	34 新潟造船	52 山口合同ガス	
17 クボタ	35 昭和電気鋳鋼	53 飛鳥建設	
18 IHI	36 小林工業	54 北海道炭鉱汽船	

2018.10.30日経新聞より

徴用工裁判の支援団体、韓国の裁判所の資料から作成 資料中の旧社名は現社名に変更した

75

徴用工訴訟に川崎重工業は含まれず

2018.10.30 徴用工訴訟、70社超が対象に 訴状未着の企業多く 日本経済新聞

韓国の裁判所や市民団体の資料によると、徴用工関連では現在、15件の訴訟が提起されており、対象企業は70社を超える。元徴用工の支援団体や韓国の裁判所の資料に基づくリストは下記の通り。

ただ、日本経済新聞がリストに掲載された企業に問い合わせたところ、多くの企業で訴状が届いていないことがわかった。訴状が届いていないと回答した企業の多くは一審の2件の集団訴訟の対象企業だ。韓国の原告側弁護士は訴状が届いていないことを把握しているが「どこで滞っているかはわからない」としている。

訴状は韓国の裁判所から両国外務省や日本の裁判所を経由して対象企業に届く。「係争中の裁判はない」と回答する企業も多かったが、追って訴状が届くとみられる。

76

韓国SPARKのみなさん

ご清聴ありがとうございました

77